

◇この議事速報（未定稿）は、正規の会議録が発行されるまでの間、審議の参考に供するための未定稿版で、一般への公開用ではありません。

◇後刻速記録を調査して処置することとされた発言、理事会で協議することとされた発言等は、原発言のまま掲載しています。

◇今後、訂正、削除が行われる場合がありますので、審議の際の引用に当たっては正規の会議録と受け取られることのないようお願いいたします。

○とかしき委員長 次に、長妻昭君。

○長妻委員 立憲民主党の長妻昭です。よろしくお願いをいたします。

先日の衆議院の予算委員会で、我が党の枝野代表が、検査について、コロナについての検査について質問したところ、田村大臣がこんな御答弁をされた。「これはランセットの掲載されている論文なんですけれども、先ほど言いましたような蓋然性の高いところでやった場合には、これは定期的にやると当該集団から感染を二五から三三%減らすことができる」。こういう答弁をされているんですが、これは事実ですか。

○田村国務大臣 ちよつと確認をしましたが、ランセットの方は、私申し上げたのは、人口の五%、これをランダムに毎週検査をした場合には実効再生産数が平均二%しか下がらないというような論文。それと、今言われたのはイギリスの大学のレポートでありまして、ここでは、四月二十三日によるものであります。医療従事者等の感染リス

クの高い集団を定期的に検査を行った場合、当該集団から感染を二五%から三三%減らすということがここに書かれておるということであります。

○長妻委員 だから、ランセットの論文じゃないんじゃないですか。

○田村国務大臣 申しわけありません。ちよつと訂正させていただきます。

ランセットは、そのときにも申し上げましたけれども、人口の五%、こちらの方がランセットであります。イギリスの大学のレポートというふうに私そのとき申し上げたとは思いませんけれども、ちよつとそこところがうまく伝わっていません。かたがとしたらお呼び申し上げたいというふうに思います。

○長妻委員 イギリスの大学のレポートというのは、どこでおっしゃったんですか。

○田村国務大臣 これもそのとき申し上げましたが、分科会の資料の中でそのようなものが書かれてあるということで、これは分科会の中で開示をされておりまして、それをごらんいただければというふうに思います。

○長妻委員 予算委員会でイギリスの大学のレポートだとおっしゃったというふうに今おっしゃいましたけれども、ちよつとそこら辺、どこにあるのか確認しますけれども、これは事実でしょうね。今、このランセットというのは、私のような者でも聞いたことがある、非常に有名な権威あるものだと思いますけれども、ランセットじゃないんですね、おっしゃった大臣の話というのは。これは、私も調べましたら、インペリアルカレ

ッジというところのレポートですよ。しかも、その後、大体二%ぐらいしか、実効再生産を下げるというふうに書いてあるんですが、これは確かに、ここだけはランセットなんです。

そうすると、これは一つのレポートだと誤解するような言い方で、ランセットに載っている、非常にミスリードするような答弁だったわけでありまして、これも、これは全く別の人が書いた別の論文をあたかもランセットに載った一つの論文かのように枝野代表に対する反証として言っていくというのは、非常によくないと思いますので、撤回の上、謝罪をしていただきたいと思うんですが。

○田村国務大臣 私がそのときに枝野代表に申し上げたのは、ランセットに書いてある二%分、つまり、二%しか下がらないと。これは、枝野代表がそのときに、検査を幅広く、みんなにやるべきだという趣旨のことをおっしゃられたと私は受けとめたものでありますから、要するに、人口の五%をランダムに毎週やるとしても、それは、それほどというか、実効再生産の二%は下げられますけれども、それぐらいしか下がらないんです。というふうなことで申し上げたわけでありまして、後段の部分は、蓋然性の高いところに検査すると効果がしっかり出るというふうに申し上げました。

この間またここで同じような質疑があって、そのときには、枝野代表が、そういう意味じゃなくて、たしかその後言われたのは、例えば、何かGOTで旅行へ行くときとかさういうときに使ったかどうかという意味でおっしゃったというふう

に、その後言われましたので、ここでたしか私、どなたかの質問のときに、枝野代表の言われていることと私が申し上げているところがちよつと：

○とかしき委員長 答弁は簡潔にお願いします。

○田村国務大臣 合っていないなかったので、ということ、そうであったとすれば申しわけないというふうに、ここでおわびを申し上げたというふうに思いますけれども。

○長妻委員 これは悪質ですよ。

ランセットに載っていない論文を載っている論文と組み合わせ、あたかも一つの論文かのように国会で強弁するというふうには感じるんですけど、これもランセットじゃないわけですかね、二五から三三というのは、それで、一つの論文じゃないわけですから。

これは、撤回、謝罪ということをちよつとここで言ってもらえますか、この点について。

○田村国務大臣 これは、枝野代表に申し上げたのは、この部分で反証したわけではないわけですね。ランセットに載っていない部分はおわび申し上げますが、ランセットに載っている部分をして枝野代表のおっしゃったことに対して私は申し上げます。

つまり、枝野代表は、無症状みんなにやるべきだというふうにおっしゃられたというふうには私は受けとめたからです。だからそれを、5%やっただとしても、一週間、これは、症状がない方々、国民に対して、ランダムに。そのときには、そういう効果というのは薄いんですよという意味で、ラ

ンセットのことを打ち出しました。だから、そういう意味では、枝野代表に対しては、ランセットの文書をもつてしておっしゃったことに対して申し上げますわけでありませぬ。

そこもそうじゃないと枝野代表がおっしゃられたので、そんなことは言っていないとおっしゃられたので、その後、私は、枝野代表に当たっていませんから、反証できませんでした。

ただ、この委員会と同じことを言われたときに、枝野代表と私の間でそれぞれ言っていることにすれ違いがあったので、それに関しては、私が思っているところと枝野代表が思っているところが違ったので、ちよつとすれ違いの中でのいろいろなことを私として申し上げたことはおわびを申し上げますとたしか言ったはずでございますから、この委員会の議事録をお調べをいただければありがたいと思えます。

○長妻委員 いや、私はそのことを言っているんじゃないんで、ランセットに載っていると、言いながら、前段は全く違う大学のレポートを引用して、後段だけランセットの論文を引用して、あたかも一つの論文がランセットに載ったような形で答弁をしたということが、非常にミスリードだし、撤回して謝罪すべきだと言っているんです。なかなか、同じ言いわけをするのであれですけども。

もう一つ気になるのは、議事録を読むと、枝野代表は、一般の人にのべつ幕なし検査しろなんて言っていないよ、その質問も。GOTトラベルとかGOTオートとか、そういうようなことを前提に質問しているわけですよ。

それで、分科会で、検査体制の基本的な考え・戦略というのが出ていますけれども、ここで三つのパターンを吟味しているんですね。一つは、有症状者。二つ目は、無症状者のうち感染リスク及び検査前確率が高い人。検査前確率というのは、検査前に考えられる陽性率ということですね。三番目が、無症状者のうち感染リスクが低い及び検査前確率も低い。こういう人を、三つ分けて議論しているんですが。

その三番目の、感染リスク、感染前確率が低い無症状者、そこに対してのところの記述を、論文の引用がそこにもありました、確かに。それを大臣が、全部ランセットだというふうには、ランセットじゃないふうには書いてあるのにもかかわらず、ランセットの一つの論文のような形で答弁されている。

つまり、誰も、全員にのべつ幕なし検査しろなんて言っていないんですよ、我々も。無症状者のうち感染リスクが低くて検査前確率も低い人まで全部検査しろなんていう議論は、この予算委員会でもないし、一番極端なところの例をとって言うていくというのは、非常にこれはフェアじゃないと思うんですね。

お配りした資料の、配付資料のうち、さっき言った、八ページですけども、一番、無症状者、感染リスク及び感染前確率が低い場合、ここにこういうふうには書いてあるんですね。例えば、東京都で全員を対象とすれば一千四百万人、五日間で行うならば一日二百八十万件の検査が必要と。膨大なコストだと書いてあるわけですよ。こんなこと

は誰も言っていないんですよ、全員にしるなんて。その前の前のページ、六ページを見ていただく、これもさつきと同じカテゴリーですね、無症状者のうち感染リスク及び検査前確率が低いケース、そこに、下に論文が載っているわけですね、田村大臣が非常につまんで一体化して、誤解を招くような形で引用した。

こここのくだりも、全員に、感染リスクが低いところもみんな検査する、東京都民全員検査する、そういうようなカテゴリーの評価のところをつまんで国会で答弁するというのは、これは悪質だと思いますよ。そんなことを言っていないにもかかわらず、最も薄いところに検査をするというのは、効果が無い、おかしいんじゃないか、東京都民全員にやったらコストが膨大になるよ、当たり前ですよ、それは。

こういう誤解を招くようなことは、撤回、謝罪をしていただきたいんです。

○田村国務大臣 長妻委員、この間おられたかどうかわかりませんが、厚生労働委員会で、そのことに対しては、どうもすれ違いがあったので、そのようなことを枝野代表がおっしゃられておられないということ、私はそれに対しては素直におおわびを申し上げたつもりですが、あのときは、枝野代表が予算委員会で反論された後、私は当然ならなかったものからお答えできなかったんです。それで、ここで、誰だったかちよつと覚えていませんが、ちよつどいい機会が話が出ましたので、すれ違いがございましたので、それに対して、十分に意思疎通ができなかったことに関してはおわ

び申し上げますという趣旨のことを言ったと思いますので、ちよつと議事録を確認してみますけれども、それに関しては、そもそも言っている趣旨が違っていたわけですから、それに対して十分に意図が伝わらなかったということで、この委員会でも申し上げたつもりです。

○長妻委員 いや、そんな、過去のじゃなくて、今ここでもおわびしてほしいんですよ、そうしたら、撤回して。

これはおかしいですよ。この資料自体は、私別に疑義を持っているわけじゃないですけども、この分科会の資料。ただ、三つに分けて検査を評価しているとき、一番感染リスクも低い、検査前確率も低い場合、のべつ幕なしに検査するということについての評価のページを予算委員会で読み上げたわけですよ、大臣は。それは悪質だ。そんなことを言っている人はいないわけですから。

そういうような、G o T o トラベルだって感染リスクは高いわけですから、普通の一般よりは高いわけですから、飲食も伴うわけで、G o T o イーフトも。そこら辺の認識がおかしいんじゃないかということ、もう一回、撤回と謝罪していただきたいんですよ、こういう極端な議論をするのを。

○田村国務大臣 誤解に基づいて私が答弁しましたので、その後、枝野代表の方から、まあ、そんなことは言っていないというふうなお話がありました。その後、私、発言の機会がなかったのですが、その場では、ああ、それはちよつとすれ違っていましたねというような話はできませんでしたが。

だからこそ、この委員会で機会があったので、私の点は申し上げたこととさせていただきます。

それから、ランセットの件に関しては、確かに、特養等々の施設で二〇%以上、三〇%弱ですか、三〇%ぐらい下がるといふのは、これはランセットの記事ではございませんでした。ただ、これは、枝野代表がそのときに言われたことに対しての反証というよりかは、こういうものは当然それは効果がありますからという例で挙げたわけで、決して悪意で出したわけじゃありませんが、これはランセットの記事ではございませんでしたので、それに関しては申しわけないとおわび申し上げたいと思います。

○長妻委員 私が申し上げているのは、いろんな国会の、この場だけじゃない、審議とかなどで、政府側の言い方なんです、あるいは閣僚を含めて。つまり、全員に検査するというのは意味がないみたいな極論にしてその反証をしていく、こういうことが多々見られるので、厚生労働大臣、中核ですから、それはもうやめていただきたいということなんです。

このG o T o トラベルは、私は感染リスクが高いと思いますし、当然、飲食を伴う機会が多いわけですから。

きのう、東京が、六十五歳以上、慢性疾患、発着自粛、停止じゃなくて自粛というのが出たわけですけども、医療を担う大臣として、こんなのでいいんですか、こんな甘いので。

○田村国務大臣 東京都と相談の上でこういう話になったんだというふうに思います。

六十五歳以上が重症化をする、基礎疾患を持っている方もそうでありますけれども、重症化するおそれのある方々が移動することによって感染リスクが高まるとすれば、それはそういうものを停止した方がいいという御判断だったというふうに考えております。

○長妻委員 いや、停止じゃないでしょう。

○田村国務大臣 いや、だから、そういう方々が動かないということですね、停止というのは。要するに、いろいろなところに行かないという意味で、それは一つ、確かに感染リスクが下がるんだろうというふうな認識が東京都の中にあつたのであるというふうな理解いたしております。

○長妻委員 停止じゃなくて自粛なんですよね、自粛。自粛の要請なので、全然違うんですよ、大臣。所管外とか言つて、ちゃんと関心を持つていただきたいんですが。

これは、延長すると、G o T o トラベルキャンペーン。十一月三十日に自民党の下村政調会長が菅総理に会つて、来春の大型連休、ゴールデンウィーク直後まで延長する、そういう提言を出して、政府もその方針だというふうな報道されているんですけれども、これはとんでもないことだと思えますよ。大臣、怒らないんですか。

○田村国務大臣 余り怒ることはないんですけれども。

要は、分科会からも御提言いただいているんですが、第3ステージに相当するようなエリアに関しては、それは、人の移動というものに対して自制をしていただきたいというふうな話がある中

で、G o T o トラベルも、そういうところにおいて、例えば、北海道は札幌、大阪は大阪市、そして今回、東京都、こういうところでこういうふうな、G o T o トラベルに対して一定の、今までとは違う制約をかけるという形になってきたわけでありまして、それはそれでやらなきゃいけないことだというふうな思います。

G o T o トラベル全体に関しては、それは分科会の方から、全てとめろというふうな御提言はいただいていない。期限の延長に関しては、期限延長したからといって、要するに、今、中断している札幌をすぐに動かせという話じゃございませんので、延長してもここはとまっているわけでありますから。東京に関しても、六十五歳以上、基礎疾患を持つている方々に対してはそういうふうな要請があつたという話でございますから、期限が延長しても、その要請がなくなるという話ではないと思います。

○長妻委員 これは驚きました。延長は容認というふうな答弁と私は理解しましたけれども。

私、医療関係者にその後もいろいろ聞いていますけれども、もう怒り心頭ですよ、私が聞いた人は、本当に。閣内の中で医療関係者とか福祉関係者の意見を代弁できる人は、厚労大臣一人なんです。ほかにいないんです。田村大臣が、何か政府の長いものに巻かれるみたいなことなのかどうかわかりませんが、全然発信しない。じゃ、田村大臣に聞きますけれども、G o T o トラベルについての意見、医療関係者から、そういう、G o T o トラベルはどうですか、こういう

ことは聞いたことはあるんですか。

○田村国務大臣 そもそも、延長という政策と感染が拡大したところのG o T o トラベルを停止するという話は別の話で、当然、感染がおさまってくれば、G o T o トラベルというのは、それは景気対策として意味があると我々は思っておりますから、G o T o トラベルを延長することを、まだ決めてはいませんが、仮に決めたとして、それで、感染拡大地域で今停止しているG o T o トラベルをすぐに復活させるという話とはちょっと次元が違う話でございますから、あくまでも、分科会の御提言にのつとつて、やれるところはやっている、そしてその上で、延長するところはそこも、やる可能性はあると思えますけれども、そういう話だと思えますから、ちょっと何か論点がずれているというふうな思います。（長妻委員「医療関係者、質問に答えていない」と呼ぶ）

医療関係者。きのう、日医の会長の記者会見等でいろいろとおっしゃっておられるということはお聞きいたしております。

○長妻委員 いや、私が聞いたのは、医療関係者に、田村大臣、以前から、G o T o トラベルキャンペーンはうちの所管じゃない、所管じゃないとおっしゃっているんですが、大きい意味では所管ですよ、感染を抑えるという意味では。田村大臣が医療関係者に、G o T o トラベルはどうですかとか、今の現状の政府の政策の評価を聞かなかつたら、誰が聞くんですか。医療関係者にそういうふうな、G o T o トラベルキャンペーンは続けないんですかというふうなことは聞いたこと

があるんですか。

○田村国務大臣 アドバイザリーボードにも分科会にも臨床の医療関係者の方々、おられます。その方々の話の中で、感染が拡大している地域においては、GOTトラベル等々、これはエビデンスはないけれども、しかし、そういうものに対しては一定の制約をかけるべきであるというお話をいただいて、その結果として、政府として、都道府県、場合によってはエリアでは政令都市もありますから、その市長さんらともいろいろと都道府県で調整していただきながら、今このような対応をとっているわけでありまして、しっかりとお聞きした上での対応でございます。

○長妻委員 なぜ、GOTトラベルというか、そういう方向、経済優先方向からかじを切らなきゃいけないのに、そっちの方ばかり擁護するのか理解不能ですけれども。

分科会の意見を聞いた、聞いたとおっしゃいますが、尾身先生、分科会の会長ですよ、尾身先生が、東京二十三区はステージ3相当だ、こういうふうにおっしゃっておられるんですよ。ステージ3相当の場合はGOTトラベルキャンペーン停止、そういうような趣旨の答申を出しているわけですよ、分科会は。全然聞いていないじゃないですか。

じゃ、延長していいのかというのを医者さんに聞いたんですか、GOTトラベルを。聞いていないんでしょう。分科会にもそんなことは聞いていないんでしょう。それで大臣がここで、もう先走って、延長を、GOTトラベルを容認する

ような趣旨の発言をするというのは、これはとてもないことだと本当に思います。

きのう、残念ながら、新型コロナウイルスで亡くなりになった方は一日で四十名。過去最多です。そして、重症者は昨日時点で四百九十三名。九日連続で過去最多を更新しているんですよ。

私も医者さんに聞くと、ベッドの充足率、四十何%とかなんとか出てくるけれども、本当に今稼働できる充足率で見たらあんな数字じゃないというふうにも異口同音におっしゃっておられますよ。

もう医療現場は本当に大変な状況になって、私は、このままいくと本当にパニックになりかねないと、世の中が。今月の下旬から一月、年末年始、すごく危機感を持っているんですよ。非常事態宣言だっけ準備する必要がある、そのぐらいの局面だということをおっしゃる強く感じているところなんです。

そのときに、厚生労働大臣しか、繰り返しですけど、医療関係者あるいは介護の関係者、その意見を代弁するのは厚労大臣しかないんですよ。

旅行会社の方々、本当に苦境で、本当に大変だと思います。旅行会社の方々、当然、GOTトラベルをやりたいという方は多いですよ、それは。それは心情としてわかりますが、国民というのは、それ以外、医療関係者も国民なわけですから、福祉関係者も。そういう方々の意見も、所管外だといって聞かないんじゃないかと、分科会で聞いているからいいだろうじゃなくて、厚労大臣

が独自に、そういう医療関係者や福祉関係者の意見を、GOTトラベルを延長する、あるいは、GOTトラベル、二十三区は六十五歳以上だけが、しかも自粛、これでいいんだろうかと、こういうような意見を聞いてほしいということなんです。

ぜひ、聞くような、前向きにちょっと答弁いただけませんか。

○田村国務大臣 いろいろなどころではお聞きいたしておりますが、なぜGOTトラベルばかりおっしゃられるのかちょっとよくわからなくて。本来、感染拡大している場所というのはあるわけですよ。それに対して、例えば、夜の十時で停止、店を閉めていただく要請をしたりとか、そういうようなことを……（長妻委員「だから、医療関係者に聞くんですか」と呼ぶ）、医療関係者も言っていますよ、そういうことを。（長妻委員「医療関係者に聞くんですか、意見を」と呼ぶ）いや、医療関係者、おっしゃっておられます、そういうような感染拡大する場所に対して、一定

ですから、そういう意味で、トータルでいろいろなことをするのであって、GOTトラベルの、延長をどうかわかりませんが、それ自体は、当然、感染拡大して危険なエリアというか、もうこれ以上GOTトラベルをやれないというか、いろいろな、分科会でおっしゃっておられるようなものに対しては、それはそこは、仮に延長したとしても、当然のごとく停止するということも含めて、それぞれの御判断があるんだと思います。

○とかしき委員長 申合せの時間が経過しておりますので、御協力をお願いします。

○田村国務大臣 延長自体とはちよつと、私、何ら関係がないのではないのかなと思うんですけども。

○長妻委員 これで質問を終わりますけれども、いつも大臣、そういう言い方なんですよ、G o T o T ラベルだけが感染に寄与していないと。それはそうですよ。G o T o T ラベル以外だって、いろいろな要素はありますよ。だから、極論しないで、G o T o T ラベルも感染拡大に私たちは寄与していると思うし、そういうふうにおっしゃっておられる方が多いわけですから。

ぜひ大臣、ちよつと、がっかりさせないでくださいよ。医療関係者は大臣に頼るしかないんだから、政府中枢に声を届けるのは大臣しかないんだから。ぜひ、分科会が聞いているからいいとかじゃなくて、厚生労働省が独自に臨床の現場のお医者さんの話を聞いて、G o T o T ラベル、G o T o T のみならず、全体の政策についての評価をぜひ聞いていただくように、今うなずいておられますから、十回ぐらいうなずきましたね、今、ぜひ本当をお願いしますよ。よろしくお願いします。